

第5回郡山市上下水道事業経営審議会 議事概要

日 時	令和5年5月29日（月） 午前10時00分～正午
場 所	郡山市上下水道局5階 大会議室（オンライン併用）
出席者	<p>【委員：10名】 中野和典会長、小林裕子副会長、秋田桜彩委員、一井朋和委員、太田善雄委員、大槻礼子委員、満田仁一委員、宮島登喜子委員 （オンライン） 伊藤江梨委員、齋藤勉委員 ※欠席者：伊藤清正委員、渋谷正夫委員、藤沼祥子委員</p> <p>【事務局：19名】 野崎上下水道事業管理者 外</p>

1 開会	
事務局	第5回郡山市上下水道事業経営審議会を開会する。
事務局	【参考資料3 郡山市上下水道事業経営審議会委員名簿】について
事務局	委員2名解嘱となり、新たに2名が委嘱となった。
事務局	【参考資料4 郡山市上下水道事業経営審議会事務局名簿】について
事務局	人事異動により、事務局職員も変更となったため報告する。
2 会長あいさつ	
会 長	本日は水道料金の審議であり、経営審議会で非常に重要な案件であるので、実りある審議をお願いしたい。
3 審議	
事務局	会場8名、リモート2名の合計10名、欠席した委員は3名。 郡山市上下水道事業経営審議会条例第5条第2項により、出席者が過半数であるため、本日の会議は成立していることを報告する。 議事は会長が議長となり進めていただく。
議 長	本日の傍聴希望者はいるか？
事務局	本日の傍聴希望者はいない。
① 令和5年度上下水道事業予算について（資料1）	
議 長	資料1について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	【資料1 令和5年度上下水道事業予算について】説明
議 長	令和5年度の汚水処理人口普及率が下がった理由についてはどうか。
事務局	汚水処理人口の推移は資料1の1ページ目右上のグラフのとおりである。汚水処理人口普及率はオレンジの折れ線で示しており、令和3年度から令和4年度にかけては上がっている。令和5年度については予算であり、確定した数字ではない。

議 長	了解した。委員から意見等あればお願いしたい。
委 員	Q 1 資料1 1 ページ右上の下水道について、令和5年度の収入・収益も下がる見込みであるということだが、有収水量は上がっており、どうしてこのような数値になるのかを確認したい。 Q 2 下水道の接続率についてはどうか。
事務局	A 1 まず、令和5年度の有収水量の数値は早い段階の予測値であり、令和4年度の実績を踏まえていない数値である。 今後はビジョンの改定に向けて予測値を検討していく。 令和4年度の有収水量減少の理由は分析し、次回の審議会時に示すこととする。 A 2 下水道の接続率については、令和4年度末の数値が93.3%となっており、令和3年度末の93.8%と比べ、マイナス0.5%となる。接続率は、整備済地域の人口のうち実際に下水道に接続している人口の割合である。そのため、整備して間もない地域で新規に整備した地域の住民が多い場合、接続者がこれから増えていく状況にあるため、接続率は下がる。
委 員	資料1 1 ページの下水道事業業務量の推移のグラフで水洗化世帯数が大幅に伸びた要因は何か。
事務局	資料1 の水洗化世帯数の令和4年度見込数値である「110098」は「100098」の誤植である。後ほど資料を差し替えることで対応する。
議 長	委員から意見等があればお願いしたい。
委員一同	意見なし。
② 水道料金について（資料2）	
議 長	事務局から説明をお願いしたい。
事務局	【資料2】水道料金について 説明
事務局	【参考資料2】A I を活用した水道管路の劣化予測診断結果概要 について
議 長	委員から意見等あればお願いしたい。
委 員	A I 利用による診断は、2022年から開始したものか。 A I 利用による初期投資、どれほどの効率化、水道料金への影響についてはどうか。
事務局	A I 利用については昨年度に実施しており、A I の劣化予測診断結果をもとに漏水リスクが高い管路を選択し優先順位をつけることにより、効率的な更新計画が可能である。 参考資料2 では、漏水リスクの高い管路を優先した調査だが、今までは5年に一回の調査を漏水確率が高いところを優先的に調査するというので、有効性があると考えている。費用については、3,300万円である。
委 員	資料2 の9ページでA I の予測は、老朽化水道更新の10年間の予定額は反映されていない。反映されるとどの程度変わるかを知りたい。 郡山市は、類似団体に比べて企業債残高は少ないけれども経年劣化率が高い。今後、老朽化の更新を進めると企業債は膨らむが、A I の予測精度が上がるということだから、それを反映させた数字を確認したい。
事務局	A I 診断は第四次財政計画には反映していない。 企業債残高は低い水準であるが、 資料2 10ページの繰越財源の推移で示しており、今後A I 予測に従って計画を立てて経過を見て、料金算定の1つの目安として示していく。

委員	<p>Q1 資料2の8ページで資産維持費の算出方法について、現状検討されている状況はどうなっているのか。</p> <p>Q2 資料2の11ページ目で類似団体平均値が248.92に対し、12ページ目では258.2になっている。違いは何か。</p>
事務局	<p>A1 第7回審議会で財政計画を示して資産維持率がどれくらい推移するか、企業債も含めてグラフ化して示す予定である。</p> <p>Q2 資料2の12ページの258.2は、「千葉県」「神奈川県」を含めた数値で、248.92はその2県を除いた平均である。248.92に資料を訂正する。</p>
議長	委員から意見等あればお願いしたい。
委員一同	意見なし。
③ 水道料金等包括業務委託について（資料3）	
議長	事務局から説明をお願いしたい。
事務局	【資料3】水道料金等包括業務委託について】説明
会長	第1期～第3期と続いて、業務委託して想定通りだったのかどうか。
事務局	<p>第1期から契約してきた評価として、平成28年時点で99.08%だった収納率が令和3年度は99.34%で若干上がっている。停水通知を送る業務についても、平成28年度に2万件だったものが令和3年度は11,600件ということで数が減っている。</p> <p>これらから業務委託の成果があったと言えるのではないかな。</p>
委員	コスト削減的な効果はあったかどうかな。
事務局	2期目の委託では29億円程度かかっていたが、今後契約する包括業務委託では28億円で若干削減されている。
委員	予算が減るのは、人件費の削減が大きいのではないかな。これまで2期契約してきて、そのあたりをどう評価されているのかな。
事務局	現在給水装置に係る職員数は正職員を含め14名で対応しているが、窓口業務6名分の業務は削減見込みである。
議長	業務委託については、今後も質問が出る項目である。DX推進など民間の力を借りなければできないことにはお金がかかる。
事務局	委託にしたことで人件費の削減に効果があったということで、今後そうした資料を提供したい。
委員	<p>A1 民間に委託することによって、技術系の方が減少してしまうことによる不具合があるのではないかな。</p> <p>A2 完全な民間委託では、責任の所在はどのように考えているのかな。</p>
事務局	<p>Q1 技術系職員が減っている状況で、従来どおり職員だけでやるのは時間もかかり、市民や事業者に迷惑がかかることにもなる。官民連携して経過を見る予定である。</p> <p>Q2 責任の所在については、国が作った「業務の責任の所在は第三者委託者が負う」という制度を活用するが、だからと言って市としては無責任ではなく、業務に関与しながら支障が無いよう実施していく。</p>
委員	了解した。
委員	下水道の接続率が下がり続けていることについて、新しく整備したところが接続してくれないということは、新しく面整備したところが効果を発揮していないということであり、面整備の効果があまり無いところを実施しているのではないかな。
事務局	下水道整備は国の10年概成という方針に従って令和8年度まで継続し、汚水処理人口普及率95%を目指して進めているところである。下水道整備と接続率の関係について

	は、整備が必要な地区を優先して実施しているが、下水道整備地域が増えれば全体の接続率が下がるということもあり、1軒でも多く接続してもらえよう進めていく。
委員	汚水処理人口普及率 95%には合併処理浄化槽も含まれるのか。
事務局	含まれる。今後も区画整理地内は下水道整備を進めるが、汚水処理人口普及率 95%を達成したあとは、合併処理浄化槽などを活用した計画にするのか、もっと別な形にするのか、改めて方向性を検討する。
委員	今後、人口が減少して、令和8年度まで整備を進めることが本当に必要なことなのか検討してもらいたい。
事務局	了解した。
議長	委員から質問が無いのであれば終了する。
4 閉会	
事務局	以上をもって、第5回郡山市上下水道事業経営審議会を閉会する。